令和 4 年 6 月 18 日家庭教育セミナーサマリー

令和 4 年 6 月 18 日「ジュニアリーダー体験から学ぶ子どもの伸ばし方」というタイトルでオンラインのセミナーが開催されました。参加者は 30 人弱。泉区中央市民センターの石井淳史主査によるお話でした。ジュニアリーダー（JL）とは中高生によるボランティア活動で仙台市では各地区の市民センターを中心として行われているものです。登録されている JL たちは地域からの要請があって派遣されて子ども会の行事や町内会のお祭りなどで手伝いをしたりセレモニーの司会をしたりします。子どもたちをまとめる力が必要でゲームや手遊びなどを覚えたり、安全な活動ができるように注意するなどの指導力が求められ、定例の研修会などでそれらについて学び、初級・中級・上級などの JL 認定があるそうです。石井主査が社会教育主事の立場で JL の活動に関わってこられた中で著しい成長がみられた 4 人のお子さんの事例を通して子どもの成長にとって何が必要で JL の活動がどのようにお子さんたちに良い影響を及ぼしたのかについて熱く語っていただきました。

1 人めの事例は引っ込み思案の中学 1 年生の女の子で、友だちも少なく消極的な自分が嫌いだったそうです。お母さんがチラシで JL のことを知って参加してみたらと声をかけたそうです。もともとお子さんと遊ぶのは好きだったよう

ですがJLとしてたくさんの要請に参加する中で何事にも積極的なお子さんに変わっていきました。自分を生かせる場所をみつけて自己肯定感が高まった事例です。2人めの事例は男の子で小学生のときに子ども会の催しにきていた先輩のJLにあこがれて中学生になって自分もJLになったそうです。あこがれの先輩といつも一緒に行動してまねをして必要ならば質問をしていきました。高校1年になったときには上級研修会に参加して場を盛り上げる力や人を引っ張っていく力は先輩を超えるような実力を身に着けていたそうです。3人めの事例は不登校ぎみな高校1年生の女の子です。学校のなかでなかなか自分の居場所をみつけられないでいたのですが、JLの活動のなかで事情を知っている仲間からやさしく接してもらうことで自分の居場所をみつけていきました。そのお子さんのことを心配していた学校の担任の先生はそのお子さんが学校外でいきいきしている姿を写真で見て涙を流されるほどでした。4人めの事例は高校3年生の女の子で後輩から慕われている立派なJLです。後輩1人1人のことをよく見ていて具体的によいところをほめて後輩を育てていました。また後輩がよりうまくやれるように具体的なアドバイスも上手でした。JL活動をとおして先輩としての内容を身につけて大きく成長したケースです。

石井主査としては子どもの教育の環境として家庭と学校と地域があって、子

どもたちが成長できる機会はさまざまにある。かならずしもすべてのお子さんがJL活動に参加しなければならないというのではなく、地域においてお子さんたちの成長を促す選択肢の1つとしてJL活動があるのでそのことをもっと多くの方々に知ってほしいということでした。JLのことについてインターネットで検索する場合は仙台市の「生涯学習支援センター」で検索するか、それぞれの区役所のホームページにアクセスしてその中から検索してほしいとのことです。

セミナー終了後の座談会では過去にJLの活動に参加した方の話や村岡貴子市議からはコロナ禍で子ども会活動がなくなってしまい子どもがいきいきする場が失われてしまっていることを残念に思うという意見がありました。また終了後に行われたアンケートには石井主査の熱いメッセージに感銘を受けた多くの方々からの熱い思いが数多く寄せられました。

現在はコロナ禍のため地域からのJLへの要請も減ってしまいなかなか活動の場がなくて残念な状況もあるようですが、コロナが終息した後にはぜひまたJLの活動が活発になり、多くのお子さんたちが成長して輝いていってほしいと思いました。